

TCM

at the
FOREFRONT
of the
MUSIC WORLD

TCM

Tokyo College of Music Graduate School

東京音楽大学大学院

2020



理事長メッセージ

卓越した指導陣と優れた教育・
研究体制に加え、よりグローバルで
クリエイティブな演奏・研究活動の
場を提供



東京音楽大学理事長
鈴木 勝利

東京音楽大学は、今年、創立 112 周年を迎えました。本学は 1907 年の創立以来、培ってきた歴史と伝統を基礎に、世界に向け新たな飛躍の一步を踏み出しました。その象徴が、今年開校した、最先端の IT システムを備える中目黒・代官山新キャンパスであり、これにより、本学は、卓越した指導陣と優れた教育・研究体制に加え、よりグローバルでクリエイティブな演奏や研究活動の場を提供してまいります。

大学院音楽研究科修士課程は、1993 年 4 月に設置、その目的を「広い視野に立って、音楽に関する精深な学術と技能を修得させ、音楽専攻分野における研究能力と高度の専門性を有する職業等に必要とされる能力を養い、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与すること」と謳っています。

設置以来 20 年以上にわたり、広く音楽界で活躍できる演奏家、教育者及び研究者の養成に専心し、多くの優秀な人材を世に送り出してきました。

また、社会人及び外国人留学生の特別選抜制度を導入し、門戸を開いてまいりましたが、本学大学院修士課程への入学希望者が増加傾向にあることから、2013 年に入学定員を 70 人に増員いたしました。

今後も現状に甘んじることなく、常に地域との絆、人と人との絆を大切に、着実に進化を遂げていきたいと思っております。この 112 周年という歴史的な時間を共有し、皆さんの演奏や研究活動の新たな飛躍をサポートできるように全力を尽くしてまいります。

Contents

理事長 Message	2
学長・研究科長 Message	3
大学院音楽研究科	3
専攻・研究領域	4
行事予定・試験等日程	9
修士論文作成スケジュール	10
進路	11
入学試験資料	12
1 志願者数等の推移	
2 合格者の推移	
3 専攻別志願者数等の推移	
各種コンクール受賞者	14
先輩からあなたへ Message	16
Q&A	18



東京音楽大学大学院

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1
Tel.03-6455-2753

〒171-8540 東京都豊島区南池袋 3-4-5
Tel.03-3982-3186

学長・研究科長メッセージ

時代に流されることなく、
音楽の本質を究める。

(c)Christian Steiner



東京音楽大学学長
研究科長
野島 稔

グローバル化の波は、いまや私たちの日常生活にも押し寄せています。音楽は、もともとボーダーレスな芸術でしたが、演奏の動画が世界に同時に配信され、それを見聞きした人々は、様々な言語で感想を述べ合っています。以前よりも容易に世界に自分の演奏や作品を発信できる状況とも言えます。様々な情報があふれる中で、必ず質が問われるようになっていくことでしょう。

東京音楽大学は、私学では最もながい歴史を誇り、創立当初から世界を見据えた教育を実践してまいりました。皆さんは、これまで多くのことを学び、いろいろな考えをもってここに来られたと思います。東京音楽大学大学院においては、自らの課題に取り組み、自ら成長しようとする人を教員、スタッフ一丸となってバックアップ致します。時代の潮流や表面的な技術に流されず、地に足を付けて音楽を究めることができるでしょう。大学院では、専門技術の向上のみならず、深い教養を養い、日々研鑽を重ねている多くの教員や、ともに研究する生涯の仲間をここで得て、豊かな人生を歩んでいって頂きたいと願ってやみません。

message

大学院音楽研究科

■ 修士課程

器楽専攻

■ 鍵盤楽器研究領域

- ピアノ
- オルガン
- チェンバロ
- 伴奏

■ 弦楽器研究領域

- ヴァイオリン
- ヴィオラ
- チェロ
- コントラバス
- ハープ
- クラシックギター

■ 管打楽器研究領域

- 管楽器
- 打楽器

■ 室内楽研究領域

声乐専攻

■ 独唱研究領域

■ オペラ研究領域

作曲指揮専攻

■ 作曲研究領域

■ 指揮研究領域

音楽文化研究専攻

- 音楽教育研究領域
- 音楽学研究領域
- ソルフェージュ研究領域
- 多文化音楽研究領域

■ 博士後期課程

音楽専攻

専攻・研究領域

器楽専攻

■ 鍵盤楽器研究領域

鍵盤楽器研究領域は、より高度な音楽芸術の教育研究と文化・社会に貢献する人材の育成するために、様々な取り組みを行っています。質の高い実践的教育プログラムを有機的に展開、幅広い分野での活動を可能とするために、ピアニスト、作曲家の教員を中心に、声楽、弦楽器等の教員を含めた指導体制をとっています。

● ピアノ

きめ細かな指導による個人レッスン「器楽実習」のほか、楽曲への理解を深めるためのアナリーゼを中心とした「楽曲分析演習」、経験豊かな教授、ピアニストから直接学べる「器楽特殊研究」、アナリーゼから演奏表現の技術を考え、他の楽器への理解を通して音楽的視野を広げるための「室内楽実習」、語学、原書講読、海外からの招聘教授、ピアニストによる実技指導等、充実した授業が揃っています。1年次には、学生が主体的に演奏会を企画、運営し、必ず年1回の院生コンサートに出演し、2年次の修了演奏試験と合わせて1時間程度のリサイタル・プログラムが可能となるようにしています。その楽曲研究の成果を論文あるいはプログラムノートとして作成し、2年間の研究の集大成として発表します。修了後は、演奏活動あるいは指導者等として、様々な分野で幅広く活躍しています。



● 伴奏 Message from AP. Satoshi Sando

伴奏はその需要の多さに較べて、専門的に学べる場所は限られています。本大学院の伴奏研究領域は、国内でも数少ない伴奏ピアニストを育成する教育機関として実績を上げてきました。在学学生は東京音大からの進学以外、いわゆる外部出身者の比率も高く、年齢層も幅広いです。一度社会に出た後に、改めて学び直すため志願する者が多いのも特徴のひとつです。

カリキュラムとしては、指導担当教員によるレッスン「器楽実習」の他に、器楽伴奏、声楽伴奏、オペラ伴奏など、学生がより専門的に学びたいものに沿った「器楽特殊研究」があります。そして、楽曲に対する深い理解、さまざまな楽器や声に対する知識やそれに対応するアプローチ、基礎的な和声学や編曲法などを学習する「楽曲分析演習」と合わせた三つの授業が必修科目となっています。

大学院の在学期間は2年と非常に短いですが、学生はその間実践的なプログラムを懸命に学習し、少しでも吸収しようとしています。卒業後は数多くのステージにおける演奏や、学内外での教育サポートなど、その活躍は多岐にわたります。

■ 弦楽器研究領域 Message from Prof. Hiroyuki Yamaguchi

真の個性と自信を——大学院とは、いままでの与えられてきた知識と技術の習得にとどまらず、専門分野において自ら研究領域課題を定め、正当性を持った矛盾のない理論を確立することにあります。そのためには学生の積極的な探求心と努力が求められます。大学院では、客観性と個性を持ち合わせた経験豊かな教員が学生とともに研究課題に取り組み、学生の意欲に対し最大限のサポートがなされています。具体的には、個人レッスン「器楽実習」のほか、弦楽アンサンブルを学ぶ「器楽特殊研究」、他の楽器との「室内楽実習」等の授業を通して、奏者に必要な実践的な技術と専門的な知識を身につけることができます。



■ 管打楽器研究領域 Message from Prof. Seiki Shinohe

修士課程では、演奏経験豊かな教員から、情熱あふれる指導を受けることができる実技レッスン「器楽実習」のほか、演奏のためのアナリーゼや楽器学等を行う「器楽特殊研究」「楽曲分析演習」の授業を通して、様々な角度から専攻する楽器や演奏に理解を深めていきます。クラシックの源流をたどり、作品の成立した時代の社会背景、思想、美術等々、多面的に作品へのアプローチをはかることができます。模擬レッスン講座もあり、大学院生が、学部の後輩にレッスンし、レッスン後、良かった点、改良点などを教員と学生と一緒に議論し、大きな成果を収めています。又、学部の学生のアンサンブルに参加し、アンサンブルがどのように構築されていくかを分析しながら、指導的な役割も果たしていきます。「室内楽実習」では、室内楽のレパートリーも広げ、演奏会形式での試験に臨むことになります。

最終的には、集大成として1時間のリサイタルを行う修士演奏での学位審査を受けます。その他、オーケストラ等で演奏する機会もあり、修了生は、オーケストラ、吹奏楽のプレイヤーや指導者等、幅広く活躍しています。



■ 室内楽研究領域

音楽性豊かな演奏家を育てるために、高いレベルの演奏者による編成の室内楽が重要な意味を持っています。高度な室内楽研究を実現するには、基本的に各人の演奏技術を向上させなければなりません。本領域においては、個々の専門楽器の技術的、音楽的な徹底研究を行います。また、自分の楽器だけではなく、いろいろな楽器についてもその特性に触れ、楽曲についても演奏に必要な実践的かつ学問的アプローチを行うことになります。室内楽の研究により音楽全般に対する理解を深めることは、分野を問わず演奏者として必要不可欠です。室内楽研究領域は、2名から6名の間で自由にアンサンブルを組んで志望することができます。各グループに適した柔軟なカリキュラムが準備され、修了試験も同アンサンブルで受けることが求められますが、その過程においては、自由な発想により様々な楽器の組み合わせで研究することができます。さらに、他の研究領域開設科目も履修することが可能であり、それぞれの研究テーマに即した環境が整えられています。

専攻・研究領域

声楽専攻 Message from Prof. Satomi Kanou

★大学院音楽研究科声楽専攻は「独唱研究領域」と「オペラ研究領域」に分かれています。

■ 独唱研究領域

「独唱研究領域」の学生は、個々人の音楽性や声にあった歌曲や宗教曲などをより腰を据えて探求することが可能です。主に個人レッスンが中心となりますが、各国の歌曲を専門とする担当教員による授業（レッスン形式）を受けられ、修士演奏では自らが選定したプログラムにより研鑽の成果を示します。

■ オペラ研究領域

「オペラ研究領域」は少人数選抜による集中的なカリキュラムにより、オペラを学ぶために最適な環境を用意しています。最大の特徴は2年時に履修する「オペラ総合実習」です。学生各自がオペラの演目を選択し、一部抜粋したプログラムを構成し、上演します。個々の学生にそれぞれ指揮者、演出家、声楽家、コレペティトウアから構成される本学教員がつき、演技および音楽に関して常に手厚い指導を受けることができます。

★オーディションによりますが、どちらの領域の学生も、年に一度、全幕を上演する大学院オペラ、また、日本人の作曲家によるオペラへの参加も可能です（「オペラ特殊研究」）。このように、大学院音楽研究科声楽専攻では、それぞれの学生の音楽性や興味・関心に合わせ、様々な方向性で学ぶ道を用意し、高い学習意欲を持つ学生の希望に応えられるものとなっています。



和のオペラの所作指導



バレエ指導

作曲指揮専攻

■ 作曲研究領域 Message from Prof. Yutaka Fujiwara

作曲研究領域では、自らの個性的な創作の基盤、ないしは起点となるべき課題を定め、自主性をもって能動的な研究活動、研究発表を行い、総合的な作曲能力の向上を目指します。

様々なジャンルに対応できる教員陣による実践的なゼミ形式の授業、個人レッスンを行っています。個人レッスン担当の教員を毎年自由に選択できるシステムがあるのも本学の特徴です。

作曲研究領域は2018年度より、従来の現代音楽中心の「芸術研究」と、各種メディアに対応した実践的な「応用研究」に分かれています。

「芸術研究」では、外国の演奏団体や教育機関などとの交流や研修の機会を通じて、社会性や国際性を育み、より幅広い作品発表の場を得ることで、自己のさらなる可能性を発見できると思います。

一方、「応用研究」では、社会の多様なニーズに即戦力として対応し得る、人材の育成を目指しています。



■ 指揮研究領域 Message from Prof. Junichi Hirokami

大学院に入学すると、指揮者の存在意義から考え直し、高度かつ機能的な技法を学ぶだけでなく、深い様々な知識や教養を養うことになります。自己を見つめ、指揮者として自分に本当に必要なことは何かを追求し、自ら判断する力を身につけます。さらに、この大学院では、人とのつながりをもっとも重視しています。指揮のテクニック、音楽の知識を学ぶことはもとより、個性を尊重し、豊かな人間性を育み、総合的な人間力を高め、修士演奏では、オーケストラを指揮し、修了後、指揮者として幅広く活躍していくことを楽しみにしています。



音楽文化研究専攻

※ 2020年4月に「音楽教育専攻」から「音楽文化研究専攻」に名称変更するとともに、同専攻に「多文化音楽研究領域」を新設します。(次頁参照)

■ 音楽教育研究領域

音楽教育研究領域では、音楽科教員育成の枠組みにとらわれず、多様な音楽教育の場及び音楽活動の場を想定して、音楽と社会と人間との関わりについての研究を行なっています。教員の専門が音楽教育のみならず、文化政策、民族音楽、心理学、社会学と幅広いのも特徴です。このような学際的な研究環境で、互いに影響を受けながらテーマを決め、研究を深める2年間を過ごすことができます。また学問的な研究とともに、選択で実技の履修ができ、個人レッスンを通して実技の能力を高めることもできます。

学生の専門も様々で、研究テーマも多種多様です。音楽教師としての経験を論文にまとめようと入学してくる社会人や、日本と母国との音楽教育や文化の比較研究を行なっている留学生もいます。修了後は、教員をはじめ、音楽出版社、音楽ホールなどに就職し、自らの個性を生かしながら社会で活躍しています。

■ 音楽学研究領域

音楽学は、音楽について学問的に調べ、言葉によって論ずる分野です。本学の修士課程音楽学研究領域では、学部で演奏を専攻してきた学生や他大学出身の学生など、幅広い出自の学生が学んでいます。多様なテーマでの研究が可能であり、情報化の進んだ現在、かなりの研究活動を大学をベースとして行い、在学中に短期間国内や海外に出て資料収集・調査等を行う学生も増えています。

どのような研究テーマを選ぶとしても、音楽学研究領域で身に付けられる調査・考察・文章化・プレゼンテーションの能力は、修了後に多様な分野で生かすことができます。優秀な修士論文には、修了後に日本音楽学会で要旨発表の機会が与えられます。また、これまでの修了者の具体的な進路として、研究機関や図書館（在学中に司書資格取得の上で）、あるいは出版社、文化施設、一般企業が挙げられます。また、博士後期課程でさらに研鑽を積むことも可能です。

音楽と社会を結びつける人材として、音楽学研究領域で学んでみませんか？



専攻・研究領域

■ ソルフエージュ研究領域

本領域では、自身の実技演奏、研究などに役立つ楽曲の総合的理解、把握、解釈を可能にする高度な読譜力の習得を目指します。具体的な内容は、初見、移調、スコアリーディング等を中心としたソルフエージュ実技の習得、和声学、対位法の習得、また多面的、実践的な楽曲分析と音楽様式の変遷への考察等です。各自の専門実技のさらなる習得に加えて、論文作成およびソルフエージュ課題の作成を行います。社会の様々な場において、多様な音楽活動を展開できる人材を養成しています。



■ 多文化音楽研究領域 [新設]

多文化音楽研究領域は、多様な文化や民族性を背景とした世界観のもとに育まれてきた世界各地の伝統的な音楽文化を、現代社会における文化の多様性の視点から探求し、新たな音楽文化を創造し、発信していくことをめざす研究領域です。

音楽文化研究としての日本音楽や民族音楽の講義や演習、アートマネージメントやメディア演習、作品制作のための演習、そして、さまざまな伝統音楽の実技演習*など多彩な授業科目の中から、各自の修士研究の内容や方向に合わせて、理論と実技を自在に組み合わせながら学んでいきます。

修士研究は、多文化の音楽文化研究を修士論文としてまとめる「理論研究」、多文化の音楽を現代社会に生かす企画・制作・プロデュースなどを開発していく「開発研究」、多文化の伝統と現代をクロスさせながら新しい演奏や新しい作品を創造していく「演奏・創作研究」の3つの方向から選ぶことができます。

将来は、多様な専門を生かして、研究機関や文化施設、あるいは音楽関連企業、メディアなどでの企画制作、ならびに、クリエイターや演奏家としての活躍が期待されます。

国内はもとより世界各地から、さまざまな専門を持つ多彩な人材が集い学び合う場となることを願っています。

* 2020 年度開設予定実技

アイヌ伝統楽器（トンコリほか）

中国音楽（二胡、古箏）

キルギス音楽（コムズ）

インド音楽（シタール、タブラ）

インドネシア音楽（ジャワガムラン、ジャワ舞踊）

邦楽（生田流箏曲、古典尺八）



行事予定・試験等日程

2019 年度修士課程 主な予定

2019 年	4 月 1 日 (月)	入学式 修士 2 年 健康診断
	4 月 2 日 (火)	修士 1 年 健康診断 科目等履修生 1、2 年 ガイダンス／健康診断
	4 月 3 日 (水)	修士 1、2 年 ガイダンス
	春学期授業日	2019 年 4 月 5 日 (金) ～ 2019 年 7 月 27 日 (土)
	4 月 12 日 (金) ～ 16 日 (火)	履修登録期間
	4 月 29 日 (月)	[昭和の日] 授業日
	4 月 30 日 (火)	[国民の祝日] 授業日
	5 月 2 日 (木)	[国民の祝日] 授業日
	7 月 15 日 (月)	[海の日] 授業日
	7 月 27 日 (土)	春学期 授業・レッスン終了
	7 月 28 日 (日) ～ 9 月 12 日 (木)	夏期休業
	秋学期授業日	2019 年 9 月 14 日 (土) ～ 2020 年 1 月 20 日 (月)
	9 月 13 日 (金)	1 年修士論文ガイダンス
	9 月 16 日 (月)	[敬老の日] 授業日
	9 月 23 日 (月)	[秋分の日] 授業日
	10 月 14 日 (月)	[体育の日] 授業日
	10 月 22 日 (火)	[即位礼の日] 授業日
	11 月 2 日 (土) ～ 5 日 (火)	芸術祭期間 (授業・レッスンなし)
	12 月 22 日 (日) ～ 2020 年 1 月 5 日 (日)	冬期休業
2020 年	1 月 20 日 (月)	秋学期授業・レッスン終了
	1 月 21 日 (火) ～ 31 日 (金)	レッスン補講期間
	2 月 26 日 (水)	修了認定発表
	3 月 7 日 (土)	修了式

試験等日程予定

2019 年	7 月	13 日 (土)	修士演奏 (声楽 第 1 課題) [TCM ホール]
	10 月	9 日 (水) ～ 11 日 (金) 午後 5 時	修士論文提出 (器楽、声楽、作曲指揮)
		13 日 (日)	オペラ特殊研究「秘密の結婚」[池袋・A 館ホール]
		17 日 (木)	オペラ特殊研究「夕鶴、他」[池袋・A 館ホール]
	11 月	20 日 (水) ～ 23 日 (土)	修士課程入学試験 (授業・レッスンなし)
		上旬～	論文審査・口述試問 (器楽、声楽、作曲指揮)
2020 年	12 月	10 日 (火) ～ 13 日 (金) 午後 5 時	修士論文提出 (音楽教育)
	7 月	7 日 (火) ～ 10 日 (金) 午後 5 時	修士論文提出 (音楽学、ソルフェージュ)
		11 日 (土)・14 日 (火)・15 日 (水)・16 日 (木)	修士演奏 (ピアノ) [TCM ホール]
		15 日 (水)	修士 1 年年度末試験 (弦) [池袋・A 館ホール]
		16 日 (木)・17 日 (金)	科目等履修生年度末試験 (弦) [池袋・A 館ホール]
		17 日 (金)	修士演奏 (伴奏) [TCM ホール]
		17 日 (金)	管打楽器室内楽秋学期演奏会 [特大教室]
		18 日 (土)	修士演奏 (伴奏) [TCM ホール]
			修士 1 年年度末試験 (声楽) [池袋・A 館ホール]
			科目等履修生年度末試験 (声楽) [池袋・A 館ホール]
		20 日 (月)	修士ソルフェージュ・科目等履修生年度末試験 (ピアノ) [TCM ホール]
		21 日 (火)	修士演奏 (弦) [TCM ホール]
			科目等履修生年度末試験 (伴奏) [TCM ホール]
			ピアノ・伴奏奨学金オーディション [アンサンブル室]
		22 日 (水)	修士演奏 (独唱 第 2 課題) [TCM ホール]
		23 日 (木)・24 日 (金)	修士演奏 (管打) [TCM ホール]
		25 日 (土)・27 日 (月)	科目等履修生年度末試験 (管打) [TCM ホール]
		28 日 (火)	修士 1 年年度末試験 (管打修士 1 年修了演奏会) [TCM ホール]
	1 月	下旬	論文審査・口述試問 (音楽教育専攻)
	2 月	7 日 (金)	修士演奏 (オペラ 第 2 課題) [池袋・A 館ホール]

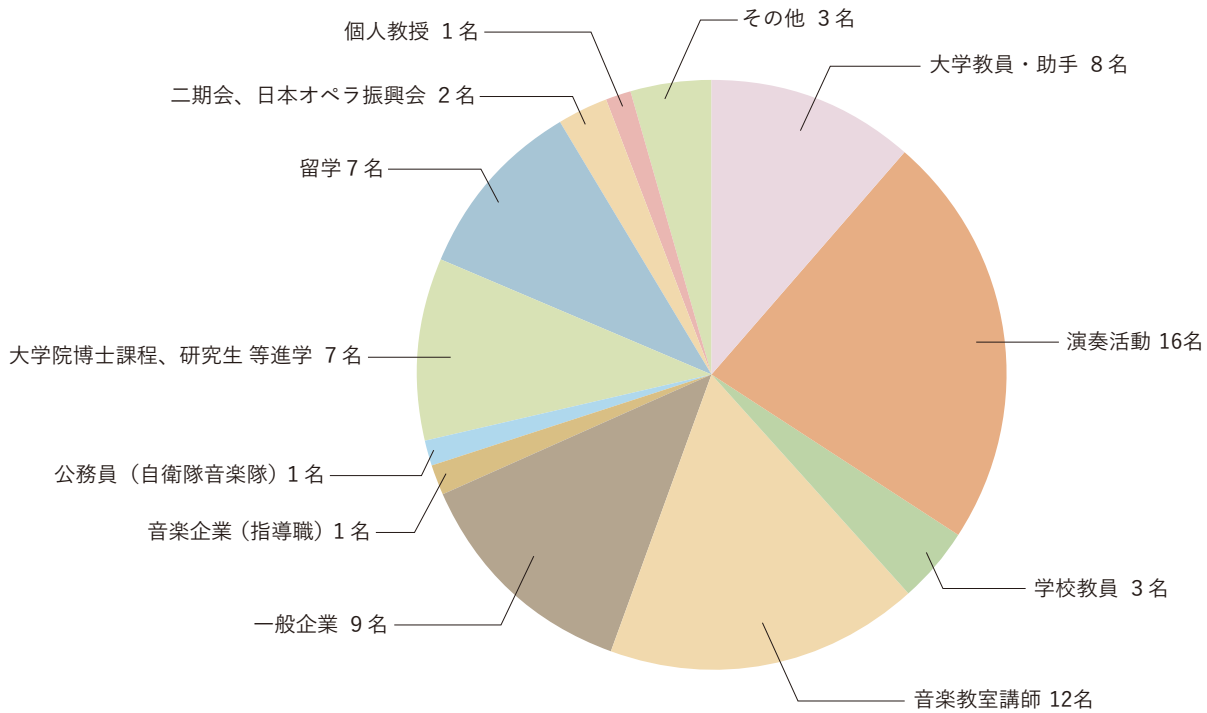
修士論文作成スケジュール

	1 年生		2 年生	
2019 年度	実技専攻	音楽教育専攻	実技専攻	音楽教育専攻
4 月	ガイダンス		ガイダンス	
		〈修士論文指導科目〉 ・音楽教育学実習 ・音楽学実習 ・ソルフェージュ特殊研究	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅲ	〈修士論文指導科目〉 ・音楽教育学実習 ・音楽学実習 ・ソルフェージュ特殊研究
5 月				音楽教育 中間発表（公開）
6 月				修士論文予定題目提出 6/17（月）～21（金）
7 月			修士論文題目提出 7/8（月）～12（金）	音楽学 中間発表（公開）
8 月				
9 月	1 年修士論文ガイダンス 9/13（金）			
10 月	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅱ		修士論文提出 10/9（水）～11（金）	修士論文題目提出 10/21（月）～25（金）
11 月			審査・口述試問	
12 月				音楽教育：修士論文提出 12/10（火）～13（金）
1 月	修士論文予定題目提出 1/15（水）～21（火）			音楽学、ソルフェージュ： 修士論文提出 1/8（水）～10（金） 1 月下旬 審査・口述試問
2 月				
3 月				要旨発表（+ 要旨集作成）
2020 年度	実技専攻	音楽教育専攻		
4 月	ガイダンス			
	〈修士論文指導科目〉 ・論文作成Ⅲ	〈修士論文指導科目〉 ・音楽教育学実習 ・音楽学実習 ・ソルフェージュ特殊研究		
5 月		音楽教育 中間発表（公開）		
6 月		修士論文予定題目提出 6/15（月）～19（金）		
7 月	修士論文題目提出 7/6（月）～10（金）	音楽学 中間発表（公開）		
8 月				
9 月				
10 月	修士論文提出 10/7（水）～9（金）	修士論文題目提出 10/19（月）～23（金）		
11 月	審査・口述試問			
12 月		音楽教育：修士論文提出 12/8（火）～11（金）		
1 月		音楽学、ソルフェージュ： 修士論文提出 1/5（火）～8（金） 1 月下旬 審査・口述試問		
2 月				
3 月		要旨発表（+ 要旨集作成）		



進路

2018 年度修了生進路



Tokyo College of Music Graduate School

主な就職先（2016-2019）

〈教育〉

■ 公立小学校	
■ 公立中学校	
■ 公立高等学校	
■ 私立中学・高等学校	慶應女子高等学校 立正中学校・高等学校 白百合中学校 他
■ 大学	東京音楽大学 日本大学芸術学部 大阪国際大学短期大学部 美作学園大学 中村学園大学・短期大学 東京未来大学

〈公務員〉

■ 陸上自衛隊音楽隊

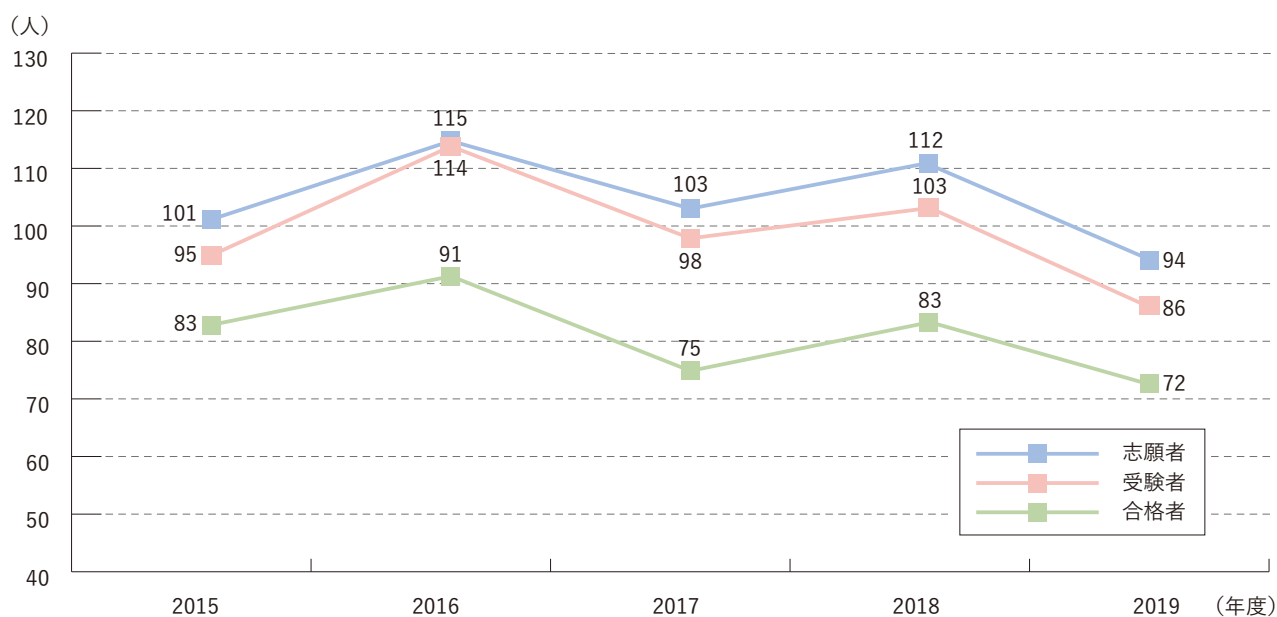
〈企業〉

■ 株式会社日本入試センター	総合職
■ 戸田建設	総合職

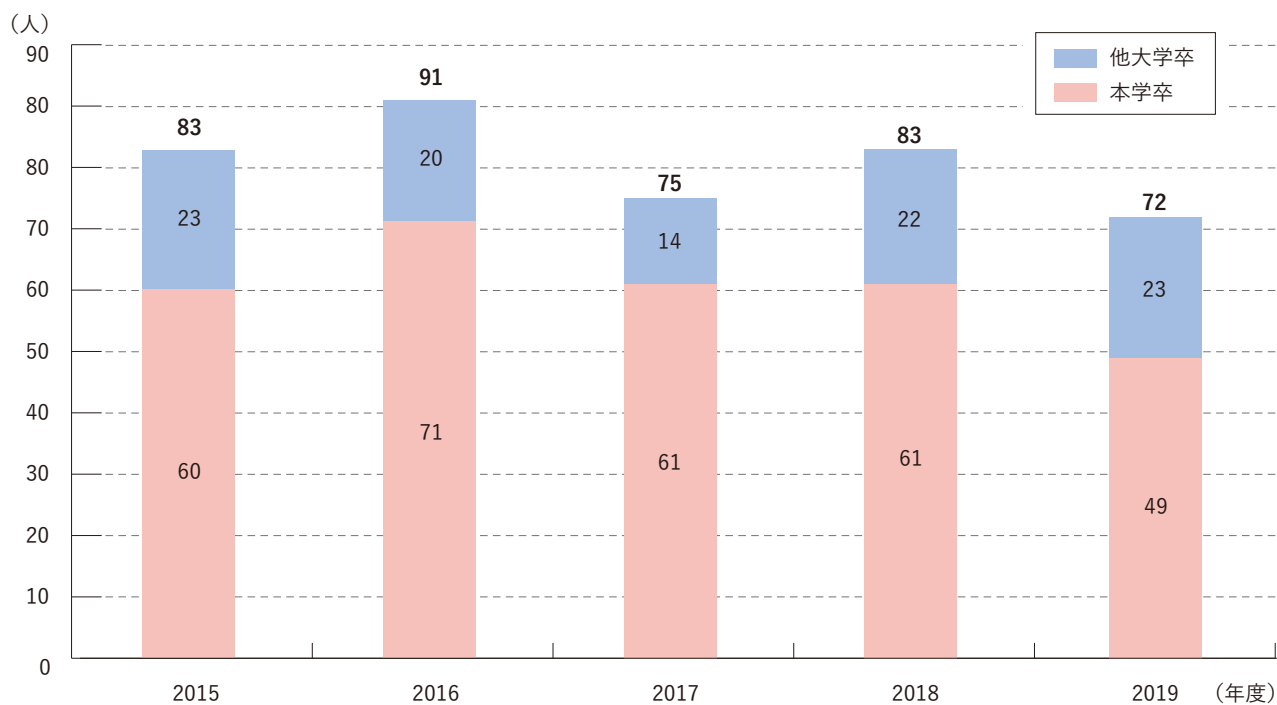
■ あいおいニッセイ損害保険株式会社	地域型総合職
■ 三井住友海上火災保険（株）	総合職
■ 株式会社リブマックス	総合職
■ 株式会社オリエンタル健康管理センター	事務営業職
■ 株式会社千疋屋	
■ NHK	歌のおねえさん
■ 株式会社日立ハイテクソリューションズ	
■ 富士ゼロックスシステムサービス	
■ 電通東日本	総合職
■ 第一生命情報システム株式会社	SE 総合職
■ アパホテル	
■ 河合楽器製作所	音教指導職
■ 株式会社グランドイン	
■ 商船三井フェリー	
■ 河合塾マナビス	他

入学試験資料

大学院修士課程 志願者数等の推移（志願者、受験者、合格者）

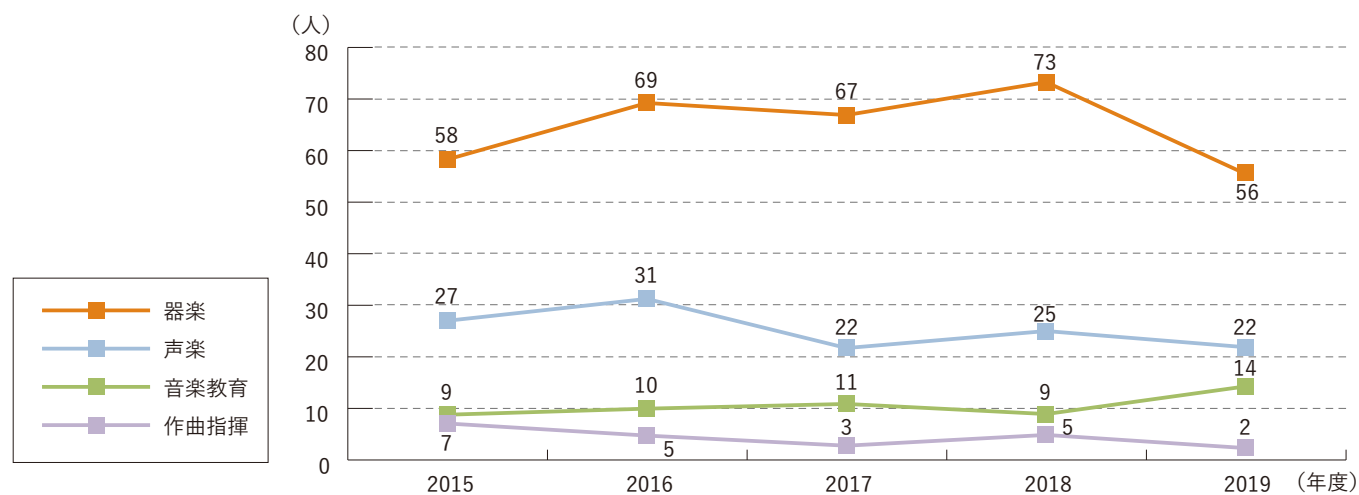


大学院修士課程 合格者の推移

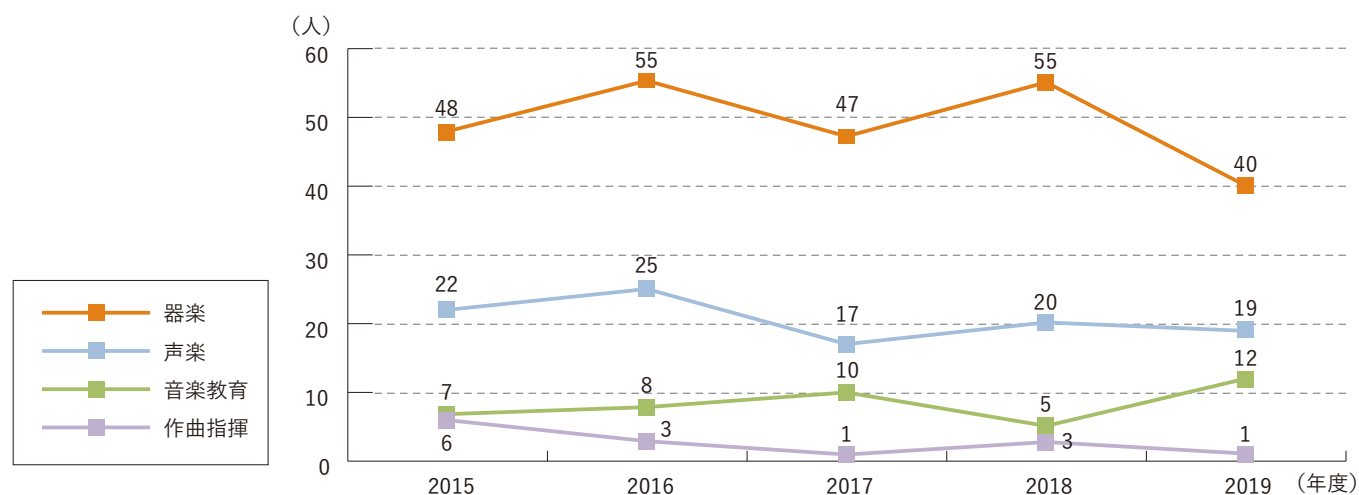


大学院修士課程 専攻別志願者数等の推移

■ 志願者



■ 合格者



専攻		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
器楽	志願者	58	69	67	73	56
	合格者	48	55	47	55	40
声楽	志願者	27	31	22	25	22
	合格者	22	25	17	20	19
作曲指揮	志願者	7	5	3	5	2
	合格者	6	3	1	3	1
音楽教育	志願者	9	10	11	9	14
	合格者	7	8	10	5	12
合計	志願者	101	115	103	112	94
	合格者	83	91	75	83	72

各種コンクール受賞者

2018 - 19 年 大学院生 コンクール等受賞者

コンクール名	受賞部門	受賞内容	氏 名	専 攻	学年 (2019 年 4 月現在)
第 4 回リュバ・ヴェリッチュ 国際声楽コンクール		第 1 位・リュバ・ヴェ リッチュ - サロメ賞	鈴木 玲奈	声楽 (オペラ)	2013 年 大学院修了
第 7 回野島稔・ よこすかピアノコンクール		第 1 位	安並 貴史	ピアノ	大学院 博士後期課程 2 年
第 10 回 浜松国際ピアノコンクール		第 6 位	安並 貴史	ピアノ	大学院 博士後期課程 2 年
第 2 回チッタ・ディ・スポレート 国際作曲コンクール		優勝	高野 裕也	作曲	大学院 2 年
IMKA INTERNET MUSIC COMPETITION		第 1 位	関 義夫	ピアノ	2005 年 大学院修了
第 6 回 シャビア市国際ピアノコンクール	シニア・カテゴリー	第 1 位	田母神 夕南	ピアノ	2018 年 大学院修了
第 12 回マグダ・オリヴェーロ 国際声楽コンクール		第 3 位・特別賞 (ベス トパフォーマンス賞)	砂田 愛梨	声楽 (オペラ)	2015 年 大学院修了
第 87 回 日本音楽コンクール	バイオリン部門	第 3 位	福田 麻子	ヴァイオリン	大学院 1 年
第 87 回 日本音楽コンクール	声楽部門	入選	砂田 愛梨	声楽 (オペラ)	2015 年 大学院修了
第 72 回全日本学生音楽コンク ール全国大会	声楽部門 大学の部	第 2 位	森山 綾子	声楽 (オペラ)	大学院 2 年
第 72 回全日本学生音楽コンク ール東京大会本選会	声楽部門 大学の部	第 1 位	森山 綾子	声楽 (オペラ)	大学院 2 年
ファツィオリジャパン創立 10 周年 記念オンラインピアノコンクール		第 1 位	中川 真耶加	ピアノ	2018 年 大学院修了
ファツィオリジャパン創立 10 周年 記念オンラインピアノコンクール		第 3 位	小林 遼	ピアノ	2018 年 大学院修了
第 24 回 びわ湖国際フルートコンクール	一般部門	第 1 位	瀧本 実里	フルート	2019 年科目等 履修生 修了
つくばフルートコンクール 2018	一般部門	第 2 位・平井和成賞	瀧本 実里	フルート	2019 年科目等 履修生 修了
第 35 回 日本管打楽器コンクール	フルート部門	第 3 位	瀧本 実里	フルート	2019 年科目等 履修生 修了
第 23 回 びわ湖国際フルートコンクール	一般部門	入選	瀧本 実里	フルート	2019 年科目等 履修生 修了
第 54 回 日伊声楽コンコルソ 2018		第 3 位・歌曲賞	砂田 愛梨	声楽 (オペラ)	2015 年 大学院修了

コンクール名	受賞部門	受賞内容	氏 名	専 攻	学年 (2019 年 4 月現在)
第 16 回 イタリア国際打楽器コンクール	マリンバ B 部門	アブソリュート 第 1 位・ アダムス特別賞	坂口 璃々己	打楽器	大学院 1 年
第 16 回 イタリア国際打楽器コンクール	ティンパニ B 部門	第 2 位	増井 彩	打楽器	大学院 1 年
第 25 回 ブルクハルト国際音楽コンクール	ピアノ部門	第 1 位	藤村 瑛亮	ピアノ演奏家 コース	大学院 1 年
第 28 回日本クラシック音楽コン クール全国大会	ピアノ部門 大学男子の部	第 3 位 (1 位・2 位なし)	藤村 瑛亮	ピアノ演奏家 コース	大学院 1 年
第 28 回日本クラシック音楽コン クール	ピアノ部門 大学女子の部	第 3 位 (1 位・2 位なし)	川崎 尚子	ピアノ演奏家 コース	大学院 1 年
第 28 回日本クラシック音楽コン クール	室内楽部門	第 3 位 (1 位・2 位なし)	佐々木 大芽	ヴァイオリン	科目等履修生
第 24 回宮日音楽コンクール	声楽部門	グランプリ (宮崎日日 新聞社賞)・最優秀賞	鈴木 吏音	声楽	大学院 1 年
第 20 回日本演奏家コンクール	弦楽器部門 一般 A の部	第 1 位・ 神奈川県知事賞	山川 瑛未	コントラバス	科目等履修生
第 12 回ベートン音楽コンクール	自由曲コース ピア ノ部門 大学・院生 A の部	第 2 位	高橋 萌	ピアノ演奏家 コース	大学院 1 年
第 35 回全日本ジュニアクラシッ ク音楽コンクール	ピアノ部門 大学生の部	第 1 位	藤村 瑛亮	ピアノ演奏家 コース	大学院 1 年
第 11 回かやぶき音楽堂 国際ピアノデュオコンクール	A 部門	第 2 位	町田 美玖	ピアノ	大学院 1 年
第 3 回 スペイン音楽国際コンクール	声楽部門	伴奏賞	吉本 悟子	ピアノ (伴奏)	2006 年 大学院修了
2018 年度 第 19 回東京音楽大学 コンクール	声楽部門	第 1 位	長田 惟子	声楽 (オペラ)	大学院 2 年
2018 年度 第 20 回東京音楽大学コンクール	声楽部門	第 2 位	石井 和佳奈	声楽 (オペラ)	大学院 2 年
2018 年度 第 21 回東京音楽大学コンクール	声楽部門	入選	久津見 れい	声楽 (独唱)	大学院 2 年
2018 年度 第 22 回東京音楽大学コンクール	声楽部門	入選	石野 真帆	声楽 (独唱)	大学院 2 年
2018 年度 第 17 回東京音楽大学コンクール	ピアノ部門	第 3 位	小倉 茉緒	ピアノ	大学院 1 年
2018 年度 第 18 回東京音楽大学コンクール	ピアノ部門	入選	藤澤 亜里紗	ピアノ	2018 年 大学院修 了 科目等履修生



層の厚い指導による
贅沢なカリキュラムで
学び培ったことが
演奏活動の基盤に。

鈴木 玲奈 (2013年修士課程声楽専攻オペラ研究領域修了)

第4回 リューバ・ヴェリッチュ国際声楽コンクール優勝

第86回 日本音楽コンクール声楽部門優勝

第49回 日伊声楽コンクール第3位、併せて読売新聞社賞受賞、日伊音楽協会賞を受賞。

第15回 世界オペラ歌唱コンクール「新しい声2013」アジア代表。

文化庁新進芸術家在外研修員、明治安田クオリティオブライフ文化財団海外音楽研修生としてミュンヘン、ウィーンにて研鑽を積む。

華やかな容姿と正確なコロラトゥーラの技術に加え、大胆な演技力で観客を魅了する新星ソプラノ。

大学院での生活は、恵まれた環境で研究分野を追求できた日々でした。素晴らしい先生方との個人レッスンに加え、「オペラ特殊研究」では、皆で舞台を作り上げる喜びと責任を感じ、仲間たちと切磋琢磨した日々はかけがえのない時間でした。また、オペラ研究領域の2年次には、ひとりひとりに歌、指揮、演出、コレペティートルなどのたくさんの先生方が手厚くご指導くださる「オペラ総合実習」の授業が毎週あります。この贅沢なカリキュラムで学び培ったことは、今の演奏活動の基盤となっており、憧れのコンクール優勝に繋がることができたのだと思います。

また、モーツァルテウム音楽院国際サマーアカデミーへの短期留学をさせていただいた経験は、様々な国の同世代の演奏家から刺激を受けたことで、国際コンクールへの挑戦や長期留学のきっかけとなりました。

大学院ではさらに、演奏会やオーティション、公開レッスンなど日々の努力を発揮するチャンスがたくさんあり、学内外で様々な演奏の機会をいただくことができたことも大変勉強になりました。

皆様もこの素晴らしい環境で果敢に挑戦しながら、充実した大学院生活を送られますよう、心よりお祈りいたしております。

・2019年9月29日(日)15時開演
東京音楽大学創立111周年記念演奏会シリーズ
声楽部会 ガラ・コンサートと第九4楽章合唱付き
東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス TCMホール

・2019年9月29日(日)19時開演
OPERAMANIA
杉並公会堂大ホール

・2019年10月2日(水)
昼の部14時半開演 夜の部19時開演
大阪交響楽団いずみホール定期演奏会
いずみホール

・2019年11月26日(火)
東京音楽大学付属高校チャリティコンサート
東京芸術劇場

・2019年12月1日(日)
第11回柏市民コンサート
柏市文化会館大ホール
オラフ / カルミナブラーナ ソプラノソロ

・2019年12月15日(日)14時開演
第38回相模原市民合同演奏会
相模原女子大学グリーンホール
モーツァルト / レクイエム ソプラノソロ

・2020年1月18日(土)14時開演
取手松陽高等学校フレッシュコンサート
取手ウェルネスプラザ

・2020年2月5日(水)14時開演
音マルシェ
浦安音楽ホール

・2020年3月22日(日)
中野区民合唱団定期演奏会
なかのZERO大ホール
ラター / レクイエム ソプラノソロ



安並 貴史 (2016 年修士課程器楽専攻鍵盤楽器
研究領域ピアノ修了・博士後期課程 2 年)

第7回野島稔・よこすかピアノコンクール第1位
第10回浜松国際ピアノコンクール第6位

大学院修士課程では、より専門的な研究や授業を受けることができる反面、自ら進んで研鑽を積み重ねなければならぬので、入学後どのように過ごすかが、学部以上に重要になります。学生達が1から企画するコンサートを作り上げたり、自分が設定した一つの研究テーマに向かって模索したり、学部では味わえなかったこと全てが自分の音楽に集約されていったように思います。

一方、大いにもがき、悩める期間でもありました。私は、修士課程修了後は社会に出て、現在でも仕事は継続しながら再び博士後期課程に通っていますが、修士時代がいかに贅沢な期間であったかを痛感しています。社会に出てからは自分の時間が極端に減ってしまいます。今悩んでいることも、日常の中で徐々に薄れて無くなってしまいかもしれません。

昨年は、第7回野島稔・よこすかピアノコンクールで優勝し、秋には第10回浜松国際ピアノコンクールで第6位を頂きましたが、練習時間の確保とその内容等、常に取捨選択の連続でした。仕事にも追われながら、それは苦しい日々でしたが、私の場合、進学しなかった人生の方が別次元の大きな苦しみを味わっていたと思います。修士進学を考えている皆様にも是非、より良い未来を拓くために、苦労を先取りしてください。そして音楽に打ち込める幸せを噛み締めながら自身を高め続けてほしいと思います。

二年間とはあつという間ですが、それでも、やりたいことにじっくりと腰を据えて取り組める環境が、修士課程には揃っています。真摯に取り組むことによって、間違いなく人生を飛躍的に豊かにできる場所です。実り多い修士生活をお祈りしています。

自身の研究に真摯に
取り組むことにより、
間違いなく人生を
飛躍的に豊かに
できる。

- ・ 2019 年 7 月 22 日 (月) 18 時開演
第2回博士リサイタル
東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス TCM ホール
- ・ 2019 年 9 月 15 日 (日) 15 時開演
東京音楽大学創立 111 周年記念演奏会シリーズ
ピアノ部会 煌めきのモーツァルトピアノ協奏曲集
学生とオーケストラが送る 111 周年から未来への始動
東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス TCM
ホール
- ・ 2019 年 9 月 24 日 (火) 19 時開演
安並貴史・務川慧悟ジョイントリサイタル
アクティシティ浜松 中ホール
- ・ 2019 年秋、デビュー CD リリース予定
(ドホナーニ / 4 つの狂詩曲 作品 11 他)



message

古田 ひかる (2019 年修士課程音楽教育専攻音楽学研究領域修了)

第一生命情報システム(株) 総合職

大学院で身についた「自ら学ぶこと」が社会での自分を支える——。

大学院に入ったのになぜ一般就職? 大学院入学を検討している皆さんならそう考えるのは至極当然なことだと思います。

ちなみに私も当初は音楽関係の仕事に就きたいと思い、大学院で音楽学を研究すると決断しました。結論からいえば、IT 企業で SE になりましたが、大学院への進学は後悔していません。

大学院では様々なことを学びましたが、次の2点について特記しておきます。

まず、本学の論文指導は教授と一対一で大変手厚いです。これは実技系学生も同様です。私に限らず文章を書くことに苦手意識を感じている音大生は多いと思いますが、大学院で文の表現や構成など丁寧にご指導いただき、文章を書くことのハードルが下がりました。演奏活動をするにしても、就職するにしても、文章能力は必須です。

次に、普段から努力をする習慣がつく、これは音大生が最も誇れる点ではないでしょうか。特に大学院生となると、自身で

やるべき課題をこなしている前提でご指導いただけます。学部と比較し授業は少ないですが、授業外での作業は圧倒的に多く、ここでの意識で質を上げるかが勝負です。まだ社会人の端くれですが、仕事外での自己研鑽の時間は必要と常々実感しています。これが学生のうちから習慣化されていると卒業後必ず役に立ちます。

大学院は楽しいですが、大変なことも多くあります。それでも覚悟を持って進学を決めたのなら、2年間全力で楽しんで知識や技術を身につけ、「音大卒」を恥じない社会人になってください。



Q & A

入試について

Q 共通科目試験はどのような内容ですか?

A 全専攻共通の外国語、音楽史、面接の試験です。詳細は募集要項の p. 3 をご覧ください。社会人及び外国人選抜受験者は、免除される場合があります。

※過去問題は池袋キャンパス A 館 1 階または、中目黒・代官山キャンパス 1 階教務課で閲覧できます。

閲覧時間は 9:00 ~ 17:00 ですが、夏期休業中は事前にお問い合わせください。

Q 実技試験の練習用に部屋を借りることはできますか?

A 実技試験前に 30 分程度の直前練習の部屋が用意されています。また、入試第 1 日目(共通科目試験日)には、大学の練習室を貸し出します。

Q 音大卒業後、家で教える仕事をしていますが、社会人特別選抜に出願できますか?

A 在職証明書の代わりに納税に関する証明書の写しを提出してください。



入学後について

Q 専攻の指導教員はどのように決まりますか？

A 合格者に希望教員アンケートを実施し、その希望をもとに決定します。ただし、ご希望に沿えない場合もあります。

Q 奨学金はいつ手続きをすればよいですか？

A JASSO の奨学金申込については、4 月のガイダンスで説明します。大学の給費奨学金は、入学試験の優秀者に給付され、申し込みは不要です。

Q 在学中どのような試験がありますか？

A 実技試験については P. 8 を参照してください。

Q 修士論文は必修ですか？

A 音楽教育専攻（音楽教育、音楽学、ソルフェージュ）は修士論文の提出が必須です（ただし、ソルフェージュ研究領域は課題集及び解説論文の提出でも可）。多文化音楽研究領域は、修士論文、作品または課題研究の提出が必須です。その他の専攻の修士論文の提出は任意ですが、作曲指揮専攻は、部会の方針で修士論文の提出が義務付けられています。論文執筆から審査までのスケジュールは p.10 を参照してください。

Q 修士課程の学生専用の練習室がありますか？

A 池袋キャンパスに 6 部屋、中目黒・代官山キャンパスに 3 部屋あります（内 1 部屋はホール楽屋と兼用）。その他、打楽器の練習室があります。また、学部と共同の練習室も利用可能です。

教員免許状について

Q 既に中学校教諭一種免許状（音楽）高等学校教諭一種免許状（音楽）を取得済みで（所要資格を満たしている場合を含む）、

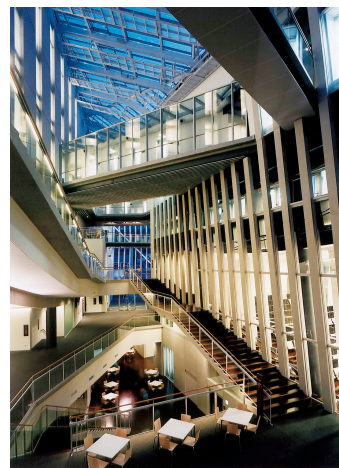
A 修士号を得るとともに、所定の単位を修得した場合、修了時に専修免許状を取得することができます。

東京音楽大学大学院学則より抜粋

第 15 条 教育職員免許状の種類及び免許教科は、次の表のとおりとする。

研究科（課程）	専攻	免許状の種類	免許教科
音楽研究科 （修士課程）	器楽専攻	高等学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状	音楽
	声楽専攻		
	作曲指揮専攻		
	音楽文化研究専攻		

2 教育職員免許状を取得するための授業科目及びその履修方法については、別に定める。



Tokyo College of Music Graduate School

Master's Programs

- Keyboard Piano/Organ/Harpsichord/Accompaniment
- String Instruments Violin/Viola/Cello/Double Bass/Harp/Classical Guitar
- Winds and Percussions Flute/Oboe/Clarinet/Bassoon/Saxophone/Horn/Trumpet/Trombone/Tuba/Euphonium/Percussion
- Chamber Music
- Vocal Music Solo • Opera
- Composition • Conducting
- Music Education • Musicology • Solfège • Ethnomusicology

Doctoral Programs

- Music

https://www.tokyo-ondai.ac.jp/graduate_school/